

市民の声

「かしわら見張り番」に寄せられた市民の方からの声をご紹介します。

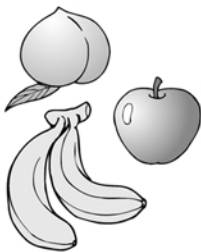
「ジャンパー、ポロシャツ、タオル」の3点セットが放置されたまま。財政難なのに、何でつくるの？

柏原市内のある福祉関係の方から連絡があった。「『子育てワクワク』」というマークの入った白いジャンパー、ポロシャツ、タオルの3点セットが事務所に山積みになっています。イベントのときに作られたのだと思うのですが、ほとんど誰も着ていません。けっこうなものなもので、費用もかかっていると思いますが、ほんとにもったいないです。業者のために発注してるんじゃないでしょうか。こんなものにお金をかけるなら、もっと福祉にお金かけてほしい。高齢の方がどんどん増えてきて、現場も人が足りないというのに、どうでもいいようなものに、大切な税金を使っていいんでしょうか。市民のみなさんはご存じないと思うので、見張り番に連絡をさせてもらいました」。



子どもたちを内部被爆から守るために

放射能に汚染されたものを食べて、粘膜が被ばくして下痢を起こしている場合、風邪だと診断されて抗生物質を投与しても効くことはありません。そんなときはペクチンが効果的です。リンゴや桃、バナナなどのフルーツに多く含まれるペクチンには、胃腸にたまった放射性物質、特にセシウムを吸着して排出してくれる働きがあります。



障がい者の方のため、梅、ブルーベリー、レモンなど実のなる木を栽培して、将来的には収穫物を加工して販売するというが、木が育つには何年もかかる。この計画性がない。NPO法人「柏原ふる里づくりの会」(三宅義雄理事長)がかかわっている。住民の猛反対にあった「イノシシ食肉加工施設」にもかかわっていた、因縁のあるNPO法人である。このNPO法人に業務委託料250万円、4人の嘱託職員に821.3万円、アルバイト賃金1200万円、その他286万円、総額2557.3万円が予算に上がっている。23年度は、総額2431万円であった。どういう関係かはわからないが、わけのわからないNPO法人にほとんど誰も来ない施設を管理させるのは、なか裏があるのだろうか。

原発・放射能について考えよう！

放射能のがれき問題など、原発に関連する市民の方の意見を募集しています。みんなで考えていきましょう。

電話 072-977-5502
FAX 072-977-8782

〒582-0026 柏原市旭ヶ丘2丁目4番25号
info@kashiwara-mihariban.com

交通の便利

玉手山公園をもっと整備しよう

柏原市立玉手山公園「ふれあいパーク」は、年間11万人もの人が訪れている人気の公園である。2月初旬〜3月初旬には散歩道をたどりながら紅白の梅が鑑賞でき、約500本のサクラが3月下旬〜4月中旬に一斉に開花する。サクラが終わると柏原市の花であるツツジが咲く。晩秋は紅葉がみもので、花の観賞には事欠かない。

明治時代、近鉄大阪線の前身である河内南鉄道がつくり、老舗遊園地として人気があった場所である。外資系遊園地の進出により、京阪神にあって子ども向け遊園地がほとんどなくなっていく中で、形を変えたとはいえ、このような公園が残っているのはありがたい。地元の人間だけでなく、近隣からも訪れる人が多い。駅からも近いので、ぶどう狩り以外で、柏原市が他市からの観光客を呼べる数少ない施設でもある。

現在、公園の管理にかかっている費用は2000万円強である。いろいろな施設の老朽化が見られるが、処分するものは思い切って処分し、安全を十分考慮した上でさらなる整備を進めるのが、柏原市の活性化につながる。柏原市が2億円以上の税金が使われている。ほとんどの、人の来ない公園である。ここに「ダチョウのヒナの購入費」や「ヤギの飼育費」にけっこうなお金をつぎ込んでいく。ダチョウやヤギを飼うなら専門的知識もいるスタッフが必要であるが、もうすでにダチョウが死んだと聞いている。障がい者の方のため、梅、ブルーベリー、レモンなど実のなる木を栽培して、将来的には収穫物を加工して販売するというが、木が育つには何年もかかる。この計画性がない。NPO法人「柏原ふる里づくりの会」(三宅義雄理事長)がかかわっている。住民の猛反対にあった「イノシシ食肉加工施設」にもかかわっていた、因縁のあるNPO法人である。このNPO法人に業務委託料250万円、4人の嘱託職員に821.3万円、アルバイト賃金1200万円、その他286万円、総額2557.3万円が予算に上がっている。23年度は、総額2431万円であった。どういう関係かはわからないが、わけのわからないNPO法人にほとんど誰も来ない施設を管理させるのは、なか裏があるのだろうか。

来場者が年間11万人が訪れる憩いの場 近隣からも訪れ、地元の活性化にも

財政困難な柏原市が、竜田古道・里山公園の整備を続けている。訪れる人はまばらで送迎が必要な場所をなぜ、開発するのであるのか。NPO法人に支払われている管理費もばかにならない。駅に近く、みんなが集う玉手山公園の整備に力を入れるべきではないか。



柏原市立玉手山公園「ふれあいパーク」HPより

はまうら佳子の元気が出るコラム

身を捨ててこそ浮かぶ瀬もあれ

最近の維新の会の勢いは、すごいですね。橋下徹・大阪市長は、昨年、市長退職金3953万円を半額の1976万円にする条例案を可決させ、さらに引き下げようと、退職金のカット率を50%から84%にしたんですね。これで、松井一郎・大阪府知事と同額の629万円になります。あまりの減額にわけがわからなくなりますが、これって、今までの16%しかもらわない、ってことですよ。市役所で報道陣に「府民の代表である知事より、市長の方が高いなんてあり得ない」と述べたそうです。給料の規定額142万円も減額し、すでに3割カットです。

橋下市長は、自身の給

料と退職金カットを掲げ当選されたわけですが、よく考えたら、公約を守るといのは当たり前のことなんです。昨今は自分の言動に責任を持たない政治家が多いから、有言実行の橋下市長がまぶしく見えます。



「身を捨ててこそ浮かぶ瀬もあれ」ってこういうことを言うんですよ。

身を犠牲にする覚悟があって初めて、ものごとを成し遂げることが出来るということなんです。これで職員の給料カットを始め、財政難の大阪市の改革を図ろうとされているんですね。ほんま、どこかの市長に聞かせてやりたいです。



ヤギやダチョウを飼うなら専門の知識を持った人を

以前の見張り番でも述べたが、今、市が整備をすすめている雁多尾畑にある竜田古道の里山公園はほとんど、人の来ない公園である。ここに「ダチョウのヒナの購入費」や「ヤギの飼育費」にけっこうなお金をつぎ込んでいく。ダチョウやヤギを飼うなら専門的知識もいるスタッフが必要であるが、もうすでにダチョウが死んだと聞いている。障がい者の方のため、梅、ブルーベリー、レモンなど実のなる木を栽培して、将来的には収穫物を加工して販売するというが、木が育つには何年もかかる。この計画性がない。NPO法人「柏原ふる里づくりの会」(三宅義雄理事長)がかかわっている。住民の猛反対にあった「イノシシ食肉加工施設」にもかかわっていた、因縁のあるNPO法人である。このNPO法人に業務委託料250万円、4人の嘱託職員に821.3万円、アルバイト賃金1200万円、その他286万円、総額2557.3万円が予算に上がっている。23年度は、総額2431万円であった。どういう関係かはわからないが、わけのわからないNPO法人にほとんど誰も来ない施設を管理させるのは、なか裏があるのだろうか。

パトロール

先日、市民の方から投書を読んだ。高井田在住で、柏原市の文化センターをよく利用しています。文化センターは駐車場が少ないので、混んでいて駐車できない場合は近くの有料駐車場を利用しています。しかし、気になるのは少ない駐車場に職員さん所有のものだと思われる車がずっと止まっていることです。そのナンバーは、和泉51ぬ●●●1です。スズキの軽自動車です。職員さんは毎日朝から晩まで止め放題なんですよ。柏原市は、市民の利用者より職員の私用車駐車を優先するのでしょうか。◆「今の、岡本市長になつてから市民より職員優遇が目立つように感じます。大阪市の橋下市長とは正反對の市長の職員に対する姿勢の表れではないでしょうか。一度、議会で取り上げてみてもらえないでしょうか。」◆職員、議員が特権意識を持つてどうするんだらうか。「公僕」ということばを好んでいるわけではないが、改善すべき問題である。